

はじめての 「世界津波の日」

「世界津波の日」が昨年12月国連総会で制定されました。11月5日、その「世界津波の日」を初めて迎えました。

広川町では、例年通り「津浪祭」が執り行われましたが、今年は第114回目でした。今年は特に第1回目の世界津波の日ということで、国連訓練調査研究所(UNITAR)の女性リーダー、14カ国25名も参列されました。



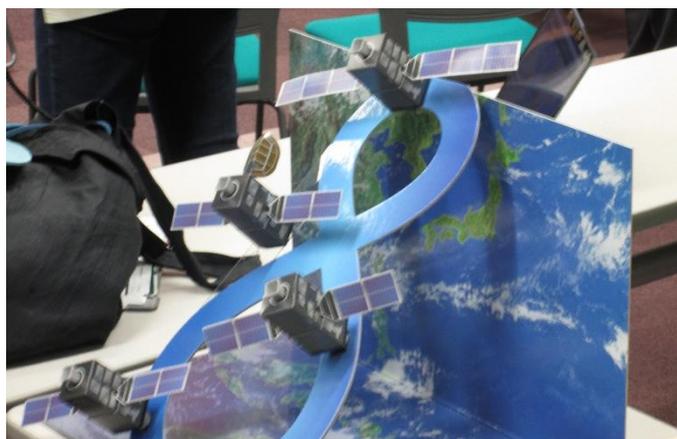
この女性リーダーは、この後なかよしこども園のこどもたちと避難訓練、稲むらの火の館見学、町関係者との懇談会を行いました。

この日、JRは八幡踏み切りで電車を停めて、地震・津波の避難訓練も実施しました。



JRの避難訓練(八幡踏み切り)

また、内閣府は稲むらの火の館で「準天頂衛星システム実証実験」をされました。これは、災害時人工衛星から災害情報(地震・津波等)、危機管理情報(テロ等)、避難勧告などの情報を送信するサービスです。まだ実用化はされていませんがその実験をされたものです。



11月5日午後5時から6時50分まで、3階ガイダンスルームにNHKがラジオのスタジオを特設して防災特別番組「稲むらの火を世界へ」を放送されました。アナウンサーは今城和久さん、ゲストは京都大学の奥村与志弘先生とNMB48の上枝恵美加さんで公開放送でしたので、町内の皆様等70名位が聞き入りました。この番組は、国際放送として同時に全世界へ向けて放送されました。

また、NHKの国際放送局はこの日「稲むらの火の館」取材され、これは映像で世界へ向けて発信されました。

東京のラジオセンターも取材されました。

国連は、11月4日の国連ニュースで「世界津波の日」が取り上げられました。

日本の避難訓練のことを詳しく取り上げ、世界へ向けて避難の重要性が伝えられました。

津波防災の情報が、広川町から世界へ発信された一日で、誇りに思います。

